

●ラヴェル：ピアノ独奏曲全曲演奏会シリーズへ膨らむ期待

國重 裕（龍谷大学教授）

ラヴェルといえば「ボレロ」を思い出す人も多いだろう。冒頭から最後まで繰り返される小太鼓の軽快なリズムに乗って、色鮮やかなオーケストラがメロディを奏でていく。ムソルグスキーのピアノ曲「展覧会の絵」に華麗なオーケストレーションをほどこしたのもラヴェルだ。

先日、イリーナ・メジューエワのリサイタルを聴いた。その日も彼女は、ピアノの魔術師だった。同じ弱音でも、彼女は音色のパレットをたくさん持っている。クラリネットが聞こえたと思ったら、オーボエが。ほら、今度はホルンが聞こえる!! そしてチェロのような深い低音……。

今回のシリーズでメジューエワはラヴェルが活躍した時代のスタインウェイを弾く。ピアノの「黄金時代」に製作された楽器から、どのような響きを引き出してくれるだろうか。これまでドビュッシーは折にふれて演奏してきたメジューエワだが、ラヴェルを集中的に取り上げるのは初めてだという。ストラヴィンスキーから「スイスの時計職人」と称賛されたラヴェルの精緻な音楽と、イマジネーションあふれる豊かな音色と卓越した技巧を備えたメジューエワのピアノイズム。現在望みうる最高の組み合わせに、期待は膨らむばかりだ。

作曲家生誕150周年を機に、メジューエワが満を持して臨むラヴェルのピアノ独奏曲全曲演シリーズ。絶対に聴き逃さないコンサートになりそうだ。

イリーナ・メジューエワ（ピアノ）



©Seiji Banda

ロシア出身。モスクワのグネーシン特別音楽学校とグネーシン音楽大学でウラジーミル・トロップに師事。1992年、第4回 E.フリプセ国際コンクール（オランダ）にて優勝。1997年から日本を本拠地として活動。2005/06年、ザ・シンフォニーホール（大阪）で4回にわたるリサイタル・シリーズ。2006年からは毎年京都でリサイタルを開催しているほか、2017/18年には東京文化会館・小ホールで日本デビュー20周年シリーズ演奏会（全3回）、2019/20年、名古屋・宗次ホールでのベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全曲演奏など、精力的な演奏活動を展開中。日本デビュー25周年を迎えた2022年には、京都コンサートホールでラフマニノフの所有していたスタインウェイを使用したりサイタルに出演、その模様がNHKにより放送されて話題を呼んだ。これまでにロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、プラハ交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団など、国内外のオーケストラと共演。

多数のCDアルバムをリリース。「ショパン：ノクターン全集」は2010年度レコードアカデミー賞（器楽曲部門）に輝く。2006年度青山音楽賞受賞。2015年、第27回ミュージック・ペンクラブ音楽賞（クラシック部門、独奏・独唱部門）受賞。

著書に「ピアノの名曲 聴きどころ 弾きどころ」、「ショパンの名曲」がある。（いずれも講談社現代新書）。

【公式サイト】<http://www.mejoueva.net/>

〔使用ピアノについて〕

NEW YORK STEINWAY CD135 'Art-Vintage'® 日本ピアノサービス株式会社 所有

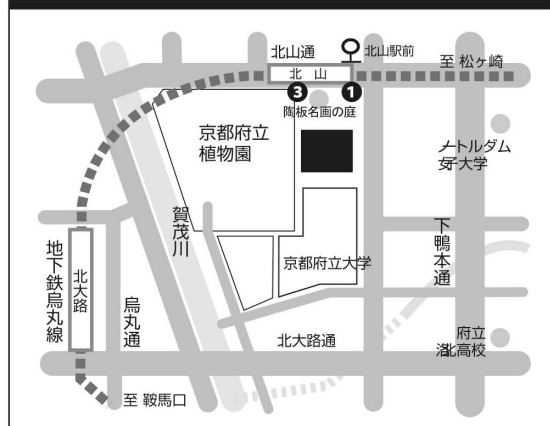
1925年にスタインウェイ本社工場で製造され、コンサートや録音に使われてきた名器。圧倒的なダイナミックレンジの広さと、微細なタッチの違いに応えて自在に変化する多彩な音色が最大の魅力です。

‘Art-Vintage’®

アートヴィンテージは日本ピアノサービス株式会社の登録商標です。日本ピアノサービスでは、古き良き時代の銘品を長年積み重ねてきた豊富な経験をもとにリビルト。自信をもってお勧めできるピアノだけを「Art-Vintage」と名づけています。



京都コンサートホール 〈アンサンブルホールムラタ〉



京都市営地下鉄烏丸線 北山駅下車 ①③出口 南へ徒歩3分
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1番地の26